

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

萩原久雄

○富山県富山市

小中一貫的連携教育について

【所見】

富山市立芝園小学校・中学校は、4つの小学校が統合し、1つの中学校との一体型校舎を有する学校で、小学校が児童数597名、中学校が生徒数421名の大規模学校である。中学校は地区外から毎年、50名前後が入学している。小学校では、プログラミング教育が実施され、英語教育は6年生で年60時間を実施している。また、教員の語学研修としてオーストラリアへ1か月行っている。

小・中学校一体型校舎のメリットとして、1,018名の児童生徒が1つの場所で学ぶことにより、そのスケールメリットの恩恵を受けられていると思う。また、先生の交流によって、中学校の先生が小学校で授業をやることにより、児童が中学の授業へスムーズに入っていける。

座学の研修後、小中学校それぞれの校舎を見学した。校舎は小学校と中学校に分かれていてその境に図書室、ランチルーム、音楽室など共有で利用できる設備がある。2階の小学校1年生から、4階の6年生のクラスまでを順次見学させていただいた。特徴的なのは小学校では教室と廊下の壁がなく、出入り口がない。教室の壁のみであり、隣のクラスの授業が聞こえてうるさいのではと疑問に思い、質問したが、あまり気にならないとのことである。それぞれが注意しているのだと思う。

各学年、私たちが通ると大きな声で挨拶され、すばらしいと感じた。また、階段状の教室は、演劇、映画鑑賞などが可能であり、大学の教室をイメージできる。

校歌は山田耕作作曲で共通である。また、ノーベル賞受賞者の田中耕一氏の母校である。

人口減少による少子高齢化の中、老朽化した公共施設の統合、廃止、再構築を行わなければならない施設が足利市には292施設ある。その中で取り組まなければならないのが、小中学校の統廃合である。富山市でも喧々諤々あったと思うが、理想の小中一貫的連携教育校ができた。ぜひ、足利市でも参考にしたい。

○石川県金沢市

金沢市における美しい景観のまちづくりについて

【所見】

北陸新幹線開業に伴い、リニューアルされた駅に建築された「鼓門」の威風堂々とした門構え、「もてなしドーム」と言われるガラス張りの天井アーチは、金沢市の歴史が蓄積された景観のまちづくりの象徴だと思う。

景観の取組は昭和39年武家屋敷群区域内の土塀、門等の修復・新設事業制度に始まった。昭和43年金沢市伝統環境保存条例制定、平成元年「金沢市における伝統環境の保存及び美しい景観の形成に関する条例」、平成21年「金沢市の美しい景観のまちづくりに関する条例」と進化しながら、現在に続いている。

伝統環境とは「樹木の緑、河川の清流、新鮮なる大気に包まれた自然景観とこれらに包蔵された歴史的建造物、遺跡等及びこれらと一体をなして形成される環境」である。

このコンセプトに合意形成されるまでの、市民の御尽力に敬服する。景観は市民に納得していただければ、継続できない。眺望景観の保全、保存対象物の指定、景観計画区域、一番大事な景観系方針及び景観形成基準の策定、全てに市民の同意、協力がなければ成り立たない事業である。歴史的風情を残す町並みの「古」、ちょっとした小さい町並みの「小」、その二文字を取って「こまちなみ」。平成6年に制定された「金沢市こまちなみ保存条例」、さらに用水の景観、開渠化（蓋で覆われていない用水）、清流の確保、用水の利用を目的とした「金沢市用水保全条例」、「斜面緑地保全条例」、「沿道景観形成条例」、「金沢市における夜間景観の形成に関する条例」と多岐にわたり、市民の努力、協力がうかがえる。

そのための補助金交付・助成金制度は充実しており、対象事業は100以上に及ぶ。例えば、金沢名物である木竹の雪吊りは剪定2万円、雪吊り2万円で設定されている。

こうした長年の蓄積が町並みを保全し、世界中から観光客が訪問しているのだと感じた。足利市も景観の形成に関する条例で指定されている地域には市民の協力が欠かせないとともに行政の努力が必要だと思う。